



第1章 プランの策定にあたって

1 プランの策定と背景

- (1) 荒川区が目指すスポーツの推進
- (2) スポーツを取り巻く社会状況の変化

2 プランの位置づけ・計画期間

- (1) 位置付け
- (2) 計画期間



▲荒川総合スポーツセンター

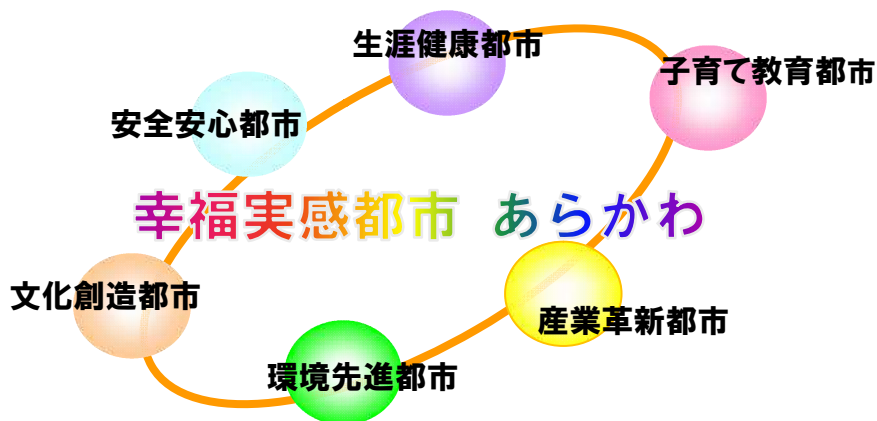
第1章 プランの策定にあたって

1 プランの策定と背景

(1) 荒川区が目指すスポーツの推進

荒川区では、物質的な豊かさや経済効率だけでなく、心の豊かさや人と人との繋がりを大切にしながら、区民一人一人が真に幸福を実感できるまちづくりを進めるため、平成19年3月に策定した荒川区基本構想において、区の目指すべき将来像を「幸福実感都市あらかわ」と決めました。更に、この区の将来像を支える六つの都市像を位置づけ、「幸福実感都市あらかわ」の実現に向けて様々な取り組みを行っています。

■ 荒川区の将来像と六つの都市像



荒川区のスポーツ振興の目的は、スポーツを軸として、基本構想で示した六つの都市像が持つ様々な力を結集し、乳幼児から高齢者まであらゆる区民の「幸福実感」を高めることにあります。

本プランはその道筋を明確にし、区におけるスポーツの更なる推進を図るものです。

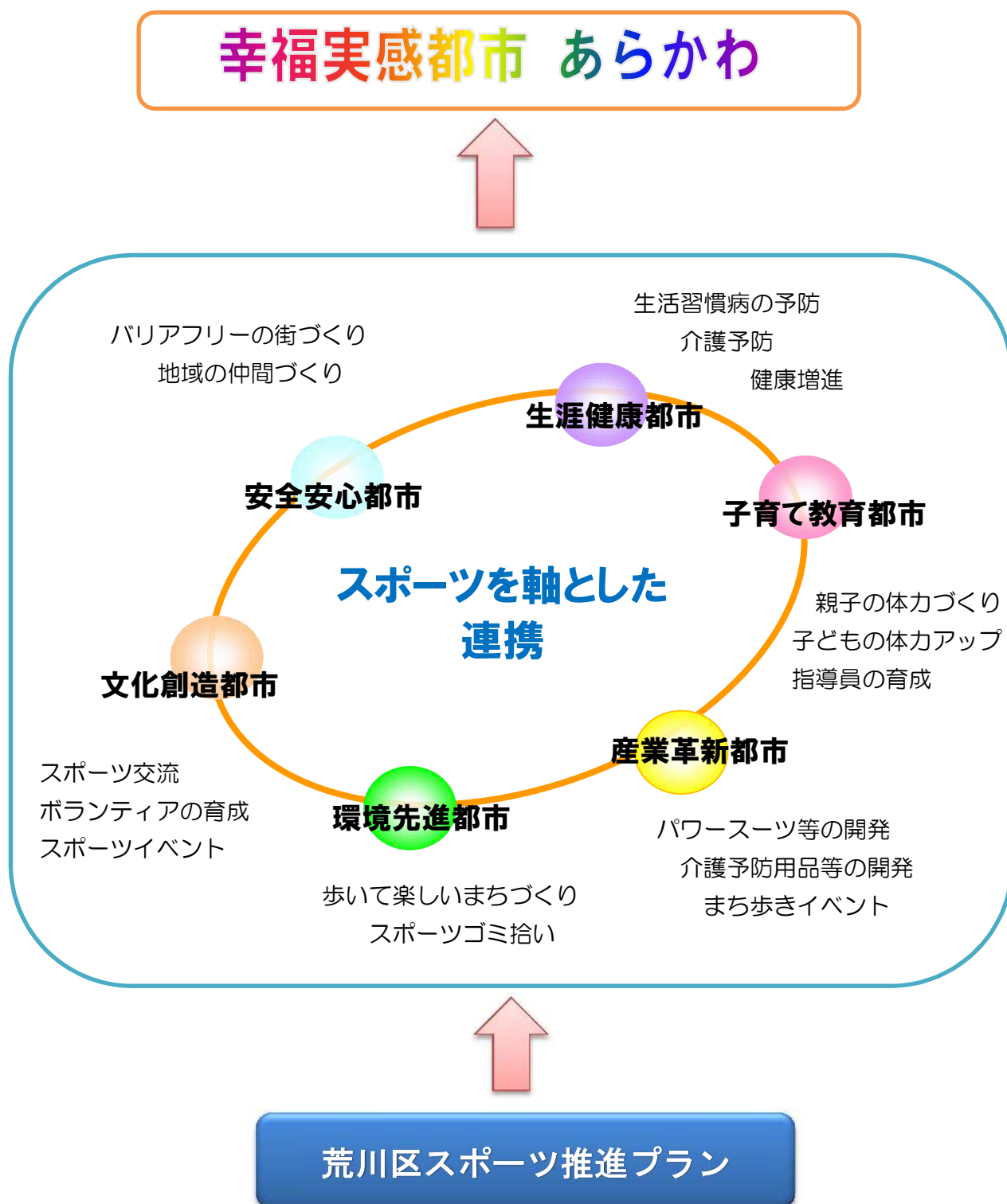
① 区民の幸福実感の向上とスポーツの役割

「幸福実感都市あらかわ」の実現を目指す荒川区では、区民の幸福度に関する調査を実施しており、区民が幸福な生活に欠かせないと考えるものの第一位は「健康」であるとの結果を得ています(*1)。健康を維持するためにも、日々のスポーツ習慣は重要な役割を果たします。また、幸福度調査では、地域社会との結びつきが強いほど幸せだと感じる人の割合が高くなっています(*2)。スポーツは、仲間づくりやボランティア活動など地域との結びつきを強め、社会貢献活動などにも繋がることから、健康増進はもとより生甲斐づくりをサポートします。

(*1) (*2)公益財団法人荒川区自治総合研究所が平成25・26年度に実施した、「荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民アンケート調査」の結果より

② 「幸福実感都市あらかわ」の実現にむけた六つの都市像の連携

スポーツを通して「幸福実感都市あらかわ」の実現を図るためには、健康、福祉、教育、子育て、文化、経済など、区政のあらゆる分野が力を併せて施策を実施することが重要です。そのため、スポーツを軸として六つの都市像が相互に連携し、一体となって取り組みを進めることが肝要であると考えます。



(2) スポーツを取り巻く社会状況の変化

スポーツを取り巻く環境は、経済状況や世相を反映して様々に変化してきました。とりわけ、昭和39年（1964年）のオリンピック東京大会は、我が国におけるスポーツへの関心を飛躍的に高める契機となりました。そして、一昨年、2020年オリンピック・パラリンピック協議会の東京開催が決定したことを受け、スポーツへの関心や健康づくりに対する機運はこれまでも増して高まっています。

こうした背景を踏まえて、ここでは、昭和39年（1964年）以降のスポーツを取り巻く社会状況の変化を考察し、現状を的確に把握することで、更なるスポーツ推進の方策を探り、本プランに反映することとします。

① 昭和39年（1964年）～昭和54年（1979年）

昭和39年（1964年）、アジア初のオリンピックが東京で開催されました。これを契機に、翌々年には「体育の日」が制定され、スポーツが広く生活に浸透していきました。また、カラーテレビの普及に伴い、野球、相撲、ボクシング、ボウリングなど、多くの競技がテレビ放映され、スポーツ選手を主人公としたドラマやアニメ等が数多く制作されたのもこの時期です。

荒川区では、運動場などの屋外スポーツ施設の整備が進みました。

【主な出来事】

年	世界	国	東京都	荒川区
昭和39年 (1964年)	アジア初の五輪となる、東京オリンピックが開催			
昭和41年 (1966年)		体育の日制定		
昭和45年 (1970年)	植村直己、世界初 5大陸最高峰登頂			少年運動場が開設
昭和46年 (1971年)		横綱大鵬引退		荒川区体育協会 創立20周年
昭和47年 (1972年)		札幌オリンピック (冬季大会)開催		荒川区体育指導 員制度の創設10 周年
昭和49年 (1974年)		プロ野球長嶋茂雄 引退		荒川自然公園内 運動施設が開設
昭和51年 (1976年)	モントリオールオリ ンピックで女子体 操コマネチが満点			
昭和52年 (1977年)		プロ野球王貞治、 756本塁打世界記 録達成		
昭和54年 (1979年)			第1回東京国際女 子マラソン開催	区民運動場開設

② 昭和55年（1980年）～平成12年（2000年）

高度成長期とバブル経済の崩壊を経て、経済活動は徐々に停滞期に入りました。

介護保険制度の導入など、健康長寿や介護予防に力点が置かれ、健康ブームが興りました。Jリーグの開幕、海の日制定、我が国二度目となる冬季オリンピックが長野で開催されたのもこの時期です。

荒川区では南千住野球場や総合スポーツセンター、荒川遊園スポーツハウスが開設し、屋内外のスポーツ環境が整備されました。

【主な出来事】

年	世界	国	東京都	荒川区
昭和55年 (1980年)		モスクワオリンピックに出場せず		
昭和56年 (1981年)				荒川区体育協会創立30周年
昭和57年 (1982年)				南千住野球場が開設、荒川区体育指導員制度の創設20周年
昭和58年 (1983年)	第1回世界陸上競技選手権大会がヘルシンキで開催			
昭和59年 (1984年)	カール・ルイスがオリンピックで陸上4冠達成			
昭和60年 (1985年)		ラグビー・新日鉄釜石が7連覇達成		荒川総合スポーツセンターが開設
昭和61年 (1986年)	マラドーナの活躍でアルゼンチンがサッカーワールドカップ優勝			
昭和62年 (1987年)	第1回ラグビー・ワールドカップ開催		後楽園球場50年に及ぶ歴史に幕	あらかわ遊園運動場開設
昭和63年 (1988年)	ベン・ジョンソンがオリンピック陸上男子100mでドーピングにより金メダル剥奪		東京ドーム落成	
平成元年 (1989年)		横綱千代の富士、角界初・国民栄誉賞		
平成3年 (1991年)	NBA マジック・ジョンソン引退		世界陸上・東京で初開催	東尾久運動場開設 荒川体育協会創立40周年 荒川リバーサイドマラソン初開催

年	世界	国	東京都	荒川区
平成4年 (1992年)	渡辺高博 バルセロナオリンピック出場			荒川区体育指導員制度の創設30周年
平成5年 (1993年)	サッカー・ドーハの悲劇	Jリーグ開幕		あらかわ遊園スポーツハウスが開設
平成6年 (1994年)				ラジオ体操 NHK 全国放送(南千住野球場)
平成7年 (1995年)	野茂英雄がメジャーリーグ・ドジャーズに入団			
平成8年 (1996年)	カール・ルイス、アトランタオリンピックで走幅跳び4連覇	海の日制定		
平成9年 (1997年)	タイガーウッズ、マスターズゴルフ史上最年少優勝		第50回都民体育大会	
平成10年 (1998年)	FIFA ワールドカップに日本初出場	長野オリンピック(冬季大会)開催	第10回都民スポーツ・レクリエーション大会開催	
平成11年 (1999年)	NBA マイケル・ジョーダンが引退			ラジオ体操 NHK 全国放送(南千住野球場)
平成12年 (2000年)	シドニーオリンピックで高橋尚子が日本女子陸上史上初の金メダル獲得			あらかわ遊園スポーツハウスに係る業務を教育委員会に管理委任し、荒川総合スポーツセンターなど区内運動施設が一元的な管理となる

③ 平成13年（2001年）～平成27年（2015年）

21世紀を迎え、携帯電話やインターネット等の普及により、子どもたちの遊びの形態が変化してきました。少子化の影響もあり、缶蹴りや鬼ごっこといった昔ながらの外遊びが減少する一方、区内には民間のスポーツジムなどが充実し、水泳教室等に通う子どもたちが増えるなど、運動をする子どもと運動をしない子どもの両極化が進んでいます。また、高齢化の進展により、生活習慣病の予防や介護予防の充実がより重要度を増しています。

更に、ICTの普及により、体調の自己管理を促進するアプリケーションが充実し、インターネットではスポーツの世界大会やオリンピック等の模様がリアルタイムでわかるなど、世界のスポーツを身近なものにしました。

平成25年（2013年）9月、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の東京開催が決定したこともあり、スポーツに対する気運が高まっています。

荒川区では、平成26年度の組織改正により、スポーツ及び文化行政に関して、「地域づくり」という観点から、地域文化スポーツ部を創設し、社会体育課の名称もスポーツ振興課と改めました。また、荒川区体育協会は、平成13年（2001年）に創立50周年、平成23年（2011年）には創立60周年を迎え、平成27年度は、協会の安定的かつ発展的な運営を確保し、区のスポーツ振興の更なる充実を図るため、法人化に向けた準備を進めており、区もそれを支援しています。

【主な出来事】

年	世界	国	東京都	荒川区
平成13年 (2001年)	タイガー・ウッズ、メジャー大会4連覇	全日本軟式卓球選手権大会女子シックスティの部で大掛まさ美(荒川区)が優勝	第50回東京都鮎釣り選手権大会で荒川区が優勝	荒川区体育協会創立50周年
平成14年 (2002年)		日本・韓国、FIFAワールドカップ開催	第55回都民体育大会春季大会弓道競技女子の部で荒川区が優勝	荒川区体育指導員制度の創設40周年
平成15年 (2003年)		横綱貴乃花光司が現役を引退		荒川リバーサイドマラソンの参加資格を区外の方にも拡大
平成16年 (2004年)	アテネオリンピックで競泳の北島康介(100m、200m 平泳ぎ金メダル)ら日本選手団がメダルラッシュ	プロ野球選手会が球界再編問題をめぐり、史上初のストを決行		ふれあいスポーツフェスティバルを開催

平成17年 (2005年)	NHL のロックアウトにより、北米4大プロスポーツリーグ史上初のシーズン全試合中止			あらかわ生涯スポーツフェスティバルが初開催
平成18年 (2006年)	第1回ワールド・ベースボール・クラシック開催、初代王者に日本代表		第26回東京都地区対抗サッカー大会で荒川区代表が優勝	荒川リバーサイドマラソンにて、東京都障がい者スポーツ指導員協議会荒川の協力を得る
平成19年 (2007年)		第17回全国高等学校定時制通信制サッカー大会で北豊島高等学校(荒川区)が優勝 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」によりスポーツに関する事務の所掌が教育委員会から地方公共団体の長において一元的に所掌できるようになった	第60回都民体育大会冬季大会スキー競技男子総合で荒川区代表が優勝 第56回東京都はぜ釣選手権大会団体の部で荒川区釣魚連合会が優勝 東京マラソンが初開催	総合型地域スポーツクラブの創設研修が開始 荒川総合スポーツセンターに指定管理者制度を導入
平成20年 (2008年)	北京オリンピックで北島康介が100m、200m 平泳ぎで金メダルを獲得(オリンピック史上初の平泳ぎ2大会連続2種目制覇) 第3回女子野球ワールドカップで日本が初優勝(志村亜貴子出場)		東京都スポーツ振興基本計画を策定	南千住地区総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会創設

平成21年 (2009年)	イチローがメジャー 新記録となる9年 連続200安打	第5回全日本女子 硬式野球選手権 大会でアサヒトラ スト(荒川区)が優勝		生涯スポーツフェ スティバルと楽楽ニ ュースポーツとのコ ラボで1,000人を 超える参加者を集 める 武道7団体による 武道会を実施
平成22年 (2010年)	第4回女子野球ワ ールドカップで日 本が2連覇(志村 亜貴子出場、ベ ストナインに選出)	プロ野球の金本知 憲が1492試合連 続フルイニング出 場の世界記録を樹 立	第63回都民体育 大会(区市町村対 抗)春季大会柔道 競技で荒川区柔道 会が優勝	総合型地域スポー ツクラブの「南千住 スポーツクラブ」が 開設
平成23年 (2011年)	FIFA 女子ワールド カップで日本が初 優勝 高田千明が IBSA WORLD GAMES(視覚障害 者の世界大会)2 00m(銀)、100m (銅)でメダルを獲 得し、全盲日本人 女子短距離初のメ ダリストとなる	東日本大震災によ るスポーツへの影 響 スポーツ基本法を 制定 スポーツ振興法で 定められた体育指 導委員がスポーツ 基本法によりスポ ーツ推進委員と呼 称が変更される		荒川区体育協会 創立60周年
平成24年 (2012年)	ロンドンオリンピッ クで日本選手団は史 上最多の38個のメ ダルを獲得 トロント世界ろう者 陸上競技選手権 大会4×400mリ レーで聴覚障害者の 国際大会における 日本男子トラック種 目史上初のメダル	オリンピック3連 覇、世界選手権13 連覇を達成した、 レスリング・吉田沙 保里が国民栄誉賞 を受賞 スポーツ基本法に 基づくスポーツ基 本計画を策定		荒川区体育指導 員制度の創設50 周年 区政80周年記念 大会として開催し た荒川リバーサイ ドマラソンに為末大 ほかを招待し、募 集定員2,500名と した

	<p>(銅メダル)獲得 (第一走者:高田裕士)</p> <p>第5回女子野球ワールドカップで日本が3連覇(志村亜貴子出場)</p>	<p>中学校学習指導要領の改訂により、保健体育において、武道・ダンスが必修化</p>		
<p>平成25年 (2013年)</p>			<p>2020年のオリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定</p> <p>東京都スポーツ推進計画を策定</p>	<p>体育の記念行事において、武道団体による「武道を全部見せるぞ」(模範演武)を実施</p>
<p>平成26年 (2014年)</p>	<p>第6回女子野球ワールドカップで日本が4連覇(志村亜貴子出場、ベストナインに選出)</p>	<p>スポーツ振興の観点から行う障害者スポーツに関する事業を厚生労働省から文部科学省に移管</p> <p>山の日が制定(施行は平成28年から)</p> <p>全日本卓球選手権大会マスターズの部女子ローゼンティで大掛まさ美が優勝(荒川区卓球連盟)</p>		<p>組織改正によりスポーツ振興課が発足</p>
<p>平成27年 (2015年)</p>		<p>ラグビー・ワールドカップで日本代表が躍進</p> <p>スポーツ庁が発足</p>		<p>区民運動場が改修・再開</p>

2 プランの位置づけ・計画期間

(1) 位置付け

本プランは、荒川区の将来像「幸福実感都市あらかわ」の実現に寄与する役割を担い、区の基本構想及び基本計画に基づき、区におけるスポーツの更なる推進に向けた方向性を示すものです。

加えて、区が策定する生涯学習推進計画や学校教育ビジョンなど、スポーツに深く関わる計画との整合を図るとともに、効率的かつ効果的な事業展開が可能となるよう、区の将来像を支える六つの都市像相互の連携と、区を挙げたスポーツの推進体制を明らかにするものです。

また、本計画は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条第1項に定める「地方スポーツ推進計画」の性格を有し、国の「スポーツ推進計画」（平成24年策定）を踏まえるとともに、国及び東京都が推進するスポーツ関連事業との役割分担を図ります。

(2) 計画期間

本プランの計画期間は、平成28年度から平成37年度の10か年とします。

また、本プランは、スポーツを取り巻く社会環境の変化等を的確に反映させるため、5年後に見直すこととします。

